

一步前に出でよ

小林日種氏講演

(三)

志なき人物は聖人も如何ともするなしだ、其人於て向上するの志なく、進歩する志なくば其効果なし、結局は其人の求め方の如何による。求むるとは求むる意の如何によつて決するものであつて、人格の定義としては私物は人格としては大地より根のは、私物が如き人格を重んずる。貪欲ゆるぎ一つしないやうな人格を重んずる、困難を経たる人、困難にアツつかつて初て光輝ある人格が生まれ出るのだ。艱難苦節に逢つて初めて利害運びが如き人格を重んじる事試すことが出来るので。古人は云へり、本書の男となるには修養するがしても大變な困難か伴ふものだ。

価値がわかる。

越後の良寛は門前の次郎吉を招いて聞いて見た。「愉快とは何味を知れるこそ本當の人間だぞ」と。次郎吉云々は「愉快とは落ちてゐる黄金を拾ふ事」だ。

私は、其の如き人間を足らずして喜悲する意味を知らざる者こそ本當の人間だ。

徹底するを知らずして喜悲する

を怠人と云ふ。

手本にすするに足

を怠人と云ふ。

